

14時30分解禁

平成28年1月 全国百貨店売上高概況

平成28年2月19日

I. 概 況

1. 売上高総額	5,309億円余
2. 前年同月比	-1.9% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	82社 238店 (平成27年12月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,007,755㎡ (前年同月比:-1.4%)
5. 総従業員数	76,808人 (前年同月比:-1.3%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	6-8月 2.2%、7-9月 2.7%、8-10月 2.9%、 9-11月 0.9%、10-12月 0.3%、11-1月 -1.4%

[参考] 平成27年1月の売上高増減率は-2.7% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

1月は正月休暇が1日少なかったこと、月前半気温が高く防寒商品の動きが鈍かったこと、一部地域で大雪の影響を受けたことなどから1.9%減と2か月ぶりのマイナスに終わった。

地区別では、東京(+0.2%)、京都(+3.8%)、札幌(+1.4%)、仙台(+0.9%)を除く14地区で前年に届かず10都市計が0.9%減、10都市以外の地区計も3.8%減と揃って前年割れ。

商品別では、主要5品目のうち身のまわり品(+0.5%)、雑貨(+5.4%)、食料品(+0.3%)が前年を上回ったものの、天候条件などから苦戦した衣料品の不振を挽回できなかった。

細分類では化粧品が全18地区でプラス。18.4%増と10か月連続の増勢を保った半面、昨年4月から好実績を残していた美術・宝飾・貴金属が10か月ぶりにマイナスを記録。これは昨年同時期に高い伸びを示した輸入時計の反動減や、人気モデルの品薄感などが主な要因となった。

訪日外国人動向は、売上高が36.2%増(約173億円)、購買客数も59.1%増(約25万人)と36か月連続でプラスを持続。高額品のまとめ買いなどから付加価値商材にシフトする動きを受けて昨年の実績をクリアした。消耗品がシェア・売上高ともに過去最高(約25%、約43億円)を記録するなど、各店から購買嗜好に変化が見受けられるとの報告が入っている。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇前半は冬型の気圧配置が弱く日本付近への寒気の流れ込みが弱かった一方、後半は冬型の気圧配置が強まり強い寒気が流れ込む時期があった。18日は太平洋側の所々で大雪となったほか、23日から25日にかけて、西日本から沖縄・奄美を中心に大陸からの強い寒気が流れ込み、日本海側のほか九州や四国でも所々で大雪となった。

(2) 営業日数増減 30.1日 (前年同月比-0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 12日 (" +1日/日曜1日増)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数140店舗)

①増加した:29店、②変化なし:45店、③減少した:66店

(5) 1月歳時記 (初売り、クリアランス) の売上 (同上/有効回答数105店舗)

①増加した:15店、②変化なし:52店、③減少した:38店

全国百貨店 売上高速報 2016年01月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後（ ）が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	530,981,272	100.0	-1.9 (-2.1)
10都市	357,395,793	67.3	-0.9
札幌	13,792,969	2.6	1.4
仙台	7,839,391	1.5	0.9
東京	139,202,299	26.2	0.2
横浜	31,083,998	5.9	-1.3
名古屋	34,143,258	6.4	-1.8
京都	21,881,766	4.1	3.8
大阪	65,941,774	12.4	-3.9
神戸	13,954,465	2.6	-2.7
広島	11,535,265	2.2	-1.7
福岡	18,020,608	3.4	-0.7
10都市以外の地区	173,585,479	32.7	-3.8 (-4.6)
北海道	2,611,617	0.5	-7.3
東北	8,647,321	1.6	-0.8
関東	80,061,725	15.1	-5.0
中部	12,979,823	2.4	-4.4
近畿	23,050,204	4.3	-2.1
中国	12,096,151	2.3	-1.7
四国	9,308,657	1.8	-2.1
九州	24,829,981	4.7	-3.7 (-8.6)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	530,981,272	100.0	-1.9 (-2.1)
紳士服・洋品	43,024,997	8.1	-7.7 (-7.9)
婦人服・洋品	129,993,220	24.5	-6.8 (-7.1)
子供服・洋品	13,805,934	2.6	-3.8 (-4.0)
その他衣料品	12,875,770	2.4	-3.1 (-3.4)
衣 料 品	199,699,921	37.6	-6.6 (-6.8)
身のまわり品	76,095,868	14.3	0.5 (0.3)
化粧品	33,803,947	6.4	18.4 (18.2)
美術・宝飾・貴金属	25,745,779	4.8	-3.3 (-3.5)
その他雑貨	20,877,583	3.9	-1.1 (-1.7)
雑 貨	80,427,309	15.1	5.4 (5.1)
家 具	5,305,276	1.0	-7.2 (-7.8)
家 電	1,358,811	0.3	12.1 (12.0)
その他家庭用品	17,048,575	3.2	1.3 (1.0)
家 庭 用 品	23,712,662	4.5	-0.2 (-0.5)
生 鮮 食 品	23,744,073	4.5	-2.9 (-3.0)
菓 子	34,730,297	6.5	1.6 (1.5)
惣 菜	27,748,845	5.2	-1.4 (-1.5)
その他食料品	36,669,793	6.9	2.6 (2.2)
食 料 品	122,893,008	23.1	0.3 (0.1)
食 堂 喫 茶	13,978,661	2.6	-2.9 (-3.1)
サ ー ビ ス	4,690,392	0.9	-9.3 (-9.4)
そ の 他	9,483,451	1.8	0.0 (-0.1)
商 品 券	8,957,242	1.7	-5.1 (-5.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －0.9%（2か月ぶりマイナス） |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －3.8%（店舗数調整後／3か月連続マイナス） |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－0.9	－0.6	2か月ぶりマイナス
札幌	1.4	0.0	2か月連続プラス
仙台	0.9	0.0	2か月連続プラス
東京	0.2	0.0	10か月連続プラス
横浜	－1.3	－0.1	2か月ぶりマイナス
名古屋	－1.8	－0.1	2か月ぶりマイナス
京都	3.8	0.1	6か月連続プラス
大阪	－3.9	－0.5	2か月ぶりマイナス
神戸	－2.7	－0.1	3か月連続マイナス
広島	－1.7	0.0	3か月連続マイナス
福岡	－0.7	0.0	2か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	－3.8	－1.3	3か月連続マイナス
北海道	－7.3	0.0	9か月連続マイナス＊
東北	－0.8	0.0	3か月連続マイナス＊
関東	－5.0	－0.8	8か月連続マイナス
中部	－4.4	－0.1	3か月連続マイナス
近畿	－2.1	－0.1	3か月連続マイナス
中国	－1.7	0.0	2か月ぶりマイナス＊
四国	－2.1	0.0	3か月連続マイナス
九州	－3.7	－0.2	3か月連続マイナス＊

（注）北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。（2005年までは6大都市）

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が10か月連続、身のまわり品、食料品が2か月連続のプラスとなった。また、衣料品が3か月連続、家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が10か月連続、その他家庭用品、菓子が2か月連続、その他食料品が3か月ぶり、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.9	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-7.7	-0.7	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	-6.8	-1.7	3か月連続マイナス
子供服・洋品	-3.8	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-3.1	-0.1	3か月連続マイナス
衣料品	-6.6	-2.6	3か月連続マイナス
身のまわり品	0.5	0.1	2か月連続プラス
化粧品	18.4	1.0	10か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-3.3	-0.2	10か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-1.1	0.0	2か月ぶりマイナス*
雑貨	5.4	0.8	10か月連続プラス
家具	-7.2	-0.1	5か月ぶりマイナス
家電	12.1	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	1.3	0.0	2か月連続プラス
家庭用品	-0.2	0.0	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-2.9	-0.1	22か月連続マイナス*
菓子	1.6	0.1	2か月連続プラス*
惣菜	-1.4	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	2.6	0.2	3か月ぶりプラス*
食料品	0.3	0.1	2か月連続プラス
食堂喫茶	-2.9	-0.1	3か月連続マイナス
サービス	-9.3	-0.1	7か月連続マイナス
その他	-0.0	0.0	6か月ぶりマイナス
商品券	-5.1	-0.1	59か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成28年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成28年2月19日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 392億円余
2. 前年同月比	0.2% (10か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.2%(91.4%) : 非店頭-0.4%(8.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	857,392㎡ (前年同月比: 0.3%)
6. 総従業員数	18,837人 (前年同月比: 0.2%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 6.4%、7-9月 6.1%、8-10月 6.1%、 9-11月 3.9%、10-12月 3.0%、11-1月 1.0%

[参考] 平成27年1月の売上高増減率は0.7%

【1月売上の特徴】

- (1) 正月休暇の1日減や、中旬の大雪の影響もあり入店客数は0.6%減で推移したものの、総額では0.2%増の10か月連続プラスとなった。
- (2) 商品別には月前半気温が高めに推移したことを要因に、重衣料や防寒小物を中心とした衣料品が伸び悩んだが、身のまわり品(+5.9%)、雑貨(+7.7%)が好調を持続したほか、家庭用品(+5.0%)、食料品(+2.0%)も健闘し全体売上を下支えした。
- (3) 細分類では化粧品が30.8%増で10か月連続のプラスを記録した半面、全国と同様に美術・宝飾・貴金属が10カ月ぶりにマイナスに転じた。また、地方物産展や食品催事の好調を受け、その他食料品(+0.3%)が5か月連続で前年を確保した。
- (4) 個別商材では梅春物のニット、ワンピース、スカートなどに活発な動きが見られたほか、ブーツの不振をパンプスがカバーする傾向が続いている。なお、インバウンド関連では国産化粧品や真珠など高品質商品に人気が集まり、スポーツシューズやハンドバッグに加え日本酒やウイスキー、漆器などジャパンメイド商品の動きも良好。
- (5) 2月は限定商材や有力ショコラティエなどの高付加価値商品を中心に、自家需要や友チョコなどの拡がりを生かしたバレンタイン商戦の活況や、春節の好調と前倒し(本年:7日~13日、前年:18日~24日)などから16日現在約2%増で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比-0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した: 3店、②変化なし: 6店、③減少した: 9店
- (3) 1月歳時記(初売り、クリアランス)の売上(同上/有効回答数10店舗)
 - ①増加した: 3店、②変化なし: 5店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2016年01月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	139,202,299	100.0	0.2
紳士服・洋品	13,237,860	9.5	-9.9
婦人服・洋品	30,968,416	22.2	-6.0
子供服・洋品	2,680,600	1.9	2.1
その他衣料品	2,852,908	2.0	-0.3
衣 料 品	49,739,784	35.7	-6.4
身のまわり品	21,585,542	15.5	5.9
化粧品	10,302,811	7.4	30.8
美術・宝飾・貴金属	7,784,311	5.6	-6.8
その他雑貨	6,075,844	4.4	-2.0
雑 貨	24,162,966	17.4	7.7
家 具	1,587,359	1.1	0.4
家 電	831,112	0.6	18.3
その他家庭用品	4,658,315	3.3	4.5
家 庭 用 品	7,076,786	5.1	5.0
生 鮮 食 品	4,408,356	3.2	-0.7
菓 子	8,382,289	6.0	7.3
惣 菜	6,635,234	4.8	0.0
その他食料品	9,054,199	6.5	0.3
食 料 品	28,480,078	20.5	2.0
食 堂 喫 茶	3,126,294	2.2	-0.3
サ ー ビ ス	1,753,548	1.3	-21.3
そ の 他	3,277,301	2.4	7.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,825,155 千円	-3.9
従 業 員 数	18,837 人	0.2
店 舗 面 積	857,392 m ²	0.3

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.1 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品と雑貨が10か月連続、食料品が5か月連続、家庭用品が2か月連続のプラスとなった。また、衣料品が3か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が10か月連続、子供服・洋品が7か月連続、菓子、その他食料品が5か月連続のプラス、家具、その他家庭用品が2か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.2	—	10か月連続プラス
紳士服・洋品	－9.9	－1.0	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	－6.0	－1.4	3か月連続マイナス
子供服・洋品	2.1	0.0	7か月連続プラス
その他衣料品	－0.3	0.0	2か月ぶりマイナス
衣料品	－6.4	－2.4	3か月連続マイナス
身のまわり品	5.9	0.9	10か月連続プラス
化粧品	30.8	1.7	10か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	－6.8	－0.4	10か月ぶりマイナス*
その他雑貨	－2.0	－0.1	6か月連続マイナス*
雑貨	7.7	1.3	10か月連続プラス
家具	0.4	0.0	2か月連続プラス
家電	18.3	0.1	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	4.5	0.1	2か月連続プラス
家庭用品	5.0	0.2	2か月連続プラス
生鮮食品	－0.7	0.0	3か月連続マイナス*
菓子	7.3	0.4	5か月連続プラス*
惣菜	－0.0	0.0	10か月ぶりマイナス*
その他食料品	0.3	0.0	5か月連続プラス*
食料品	2.0	0.4	5か月連続プラス
食堂喫茶	－0.3	0.0	2か月ぶりマイナス
サービス	－21.3	－0.3	7か月連続マイナス
その他	7.8	0.2	6か月連続プラス
商品券	－3.9	－0.1	11か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>